

BCCWJ に拠る名詞別格外連体修飾形の形成傾向の分析

田邊 和子 (日本女子大学文学部) †

Analysis of Japanese Noun's Inclination to Form Case-Outer Relative Clauses Based on the BCCWJ

Kazuko Tanabe (Japan Women's University)

要旨

本研究は、BCCWJ 調査に基づいた「連体修飾節を形成しやすい普通名詞の順位」に従って、名詞別に格内（内の関係）及び格外（外の関係）連体修飾形成率や修飾節の動詞の「ル形」・「タ形」別の比率を調査したものである。連体修飾形成率の頻度の高い名詞の中で、たとえば、有生名詞（animate noun）の「人」は、格内連体修飾節の主格が全体の90%以上であり、それとは対照的に「場合」では、ほとんどが格外連体修飾節となり、時の指定の副詞節に近い役割を成す。「必要」においては、格外連体修飾で動詞「ル形」がほとんどである。「問題」は、その中間に位置し、格内連体修飾と格外連体修飾は、ほぼ半数ずつであった。さらに動詞の「ル形」（動詞連体形）が、「タ形」使用の3倍以上であった。このように個々の名詞の意味が、格内・格外の使用傾向、さらに格内の場合はその使用する格、格外の場合は動詞の「ル形」・「タ形」の選択に影響を与えることが明らかになった。

1. はじめに

本研究は、第6回コーパス日本語学ワークショップでのポスター発表「BCCWJと日英パラレル新聞コーパスに基づいた格外連体修飾形の研究」（田辺 2014）を発展させ、格外連体修飾形のうち、共起する動詞の「ル形」と「タ形」の対比を中心に主名詞の意味と動詞の文法形式の関係について分析を試みた。

連体節の構造について確認すると、宮地（2005）は、「連体節の主名詞（底の名詞（寺村 1992））が、連体修飾節内部の用言の補語として関係を持つ「同一名詞体」（いわゆる内の関係（寺村 1992））と、そのような関係がない「付加連体」（外の関係（寺村 1992））があり、付加連体は、さらに「同格連体」と「相対連体」に整理されている（奥津 1974）。」としている。本稿での「格外連体修飾形」とは宮地の分類では「同格連体」を示す。一般的に「形式名詞」と呼ばれる「モダリティの助動詞用法」（宮地 2005）を持つ「こと」「もの」などは、本研究の対象とはしない。

言語類型論者の Comrie（1998）は、「学生が本を買った事実」という日本語の例文を挙げ、‘the fact that the student bought the book’ という英訳とともにアジア言語特有の限定修飾節として、fact-S construction という名でこの格外連体修飾節構造を紹介している。

本研究では、BCCWJ の検索結果から、「連体修飾節を形成しやすい普通名詞順位表」を作成し、その中から比較的順位の高い「人」「場合」「問題」を、また動詞の「ル形」と

† tanabeka@fc.jwu.ac.jp

「タ形」対立を論ずる材料として「事件」「動機」を取り上げ、それぞれの名詞の連体修飾節内の接続形式の特徴を明らかにしたい。そして、その結果を踏まえて、接続形式を決定付ける名詞の意味基準を提示したい。

2. 連体修飾節を形成しやすい普通名詞の順位表

下の表はBCCWJコアデータから中納言で、①普通名詞に動詞連体形が前方共起している用例、②普通名詞に助動詞の連体形が前方共起している用例、③②の中で助動詞を「た」に特定し、その前に動詞が前方共起している用例を検索し、①から③の名詞別用例数とその割合を示したものである。(表は、①の用例で用例数の多い名詞順に並べられている。①の用例総数は18,539、②の用例総数は17,654、③の用例総数は7,467)

表1 連体修飾節を形成しやすい名詞順位表

	名詞	① 動詞連体形		② 助動詞連体形		③ 動詞+「た」	
		用例数	割合	用例数	割合	用例数	割合
1	こと	3528	19.03%	1564	8.86%	691	9.25%
2	ため	1058	5.71%	222	1.26%	71	0.95%
3	もの	564	3.04%	791	4.48%	341	4.57%
4	人	474	2.56%	374	2.12%	190	2.54%
5	わけ	246	1.33%	106	0.60%	54	0.72%
6	必要	190	1.02%	9	0.05%	0	0.00%
7	場合	186	1.00%	220	1.25%	115	1.54%
8	とき	177	0.95%	249	1.41%	199	2.67%
9	ところ	164	0.88%	225	1.27%	143	1.92%
10	はず	121	0.65%	61	0.35%	30	0.40%
11	事	120	0.65%	88	0.50%	31	0.42%
12	時	112	0.60%	164	0.93%	132	1.77%
13	者	107	0.58%	68	0.39%	41	0.55%
14	情報	87	0.47%	82	0.46%	21	0.28%
15	方	81	0.44%	129	0.73%	78	1.04%
16	つもり	79	0.43%	14	0.08%	10	0.13%
17	ほか	75	0.40%	45	0.25%	35	0.47%
18	一方	72	0.39%	11	0.06%	4	0.05%
19	うち	68	0.37%	25	0.14%	0	0.00%
20	前	67	0.36%	13	0.07%	5	0.07%
21	予定	63	0.34%	21	0.12%	1	0.01%
22	意味	63	0.34%	16	0.09%	8	0.11%
23	点	61	0.33%	38	0.22%	11	0.15%
24	中	60	0.32%	33	0.19%	21	0.28%
25	方法	59	0.32%	27	0.15%	4	0.05%
26	地域	59	0.32%	35	0.20%	17	0.23%

27	言葉	58	0.31%	38	0.22%	16	0.21%
28	理由	56	0.30%	50	0.28%	21	0.28%
29	方針	55	0.30%	6	0.03%	1	0.01%
30	調査	55	0.30%	20	0.11%	10	0.13%
31	際	55	0.30%	37	0.21%	34	0.46%
32	企業	49	0.26%	40	0.23%	23	0.31%
33	問題	48	0.26%	57	0.32%	13	0.17%
34	話	46	0.25%	52	0.29%	11	0.15%
35	声	46	0.25%	24	0.14%	9	0.12%
36	女性	45	0.24%	27	0.15%	13	0.17%
37	限り	45	0.24%	26	0.15%	1	0.01%
38	形	45	0.24%	59	0.33%	20	0.27%
39	気	45	0.24%	93	0.53%	7	0.09%
40	間	45	0.24%	8	0.05%	1	0.01%

【検索式】

① 動詞連体形＋名詞

キー: 品詞 LIKE "名詞-普通名詞%" AND 前方共起: (品詞 LIKE "動詞%" AND 活用形 LIKE "連体形%") ON 1 WORDS FROM キー DISPLAY WITH KEY IN (registerName="出版・新聞" AND core="true") OR (registerName="出版・雑誌" AND core="true") OR (registerName="出版・書籍" AND core="true") OR (registerName="特定目的・白書" AND core="true") OR (registerName="特定目的・知恵袋" AND core="true") OR (registerName="特定目的・ブログ" AND core="true") WITH OPTIONS unit="1" AND tglWords="20" AND limitToSelfSentence="1" AND endOfLine="CRLF" AND tglKugiri="|" AND encoding="UTF-8" AND tglFixVariable="2"

② 助動詞連体形＋名詞

キー: 品詞 LIKE "名詞-普通名詞%" AND 前方共起: (品詞 LIKE "助動詞%" AND 活用形 LIKE "連体形%") ON 1 WORDS FROM キー DISPLAY WITH KEY IN (registerName="出版・新聞" AND core="true") OR (registerName="出版・雑誌" AND core="true") OR (registerName="出版・書籍" AND core="true") OR (registerName="特定目的・白書" AND core="true") OR (registerName="特定目的・知恵袋" AND core="true") OR (registerName="特定目的・ブログ" AND core="true") WITH OPTIONS unit="1" AND tglWords="20" AND limitToSelfSentence="1" AND endOfLine="CRLF" AND tglKugiri="|" AND encoding="UTF-8" AND tglFixVariable="2"

③ 動詞＋「た」＋名詞

キー: 品詞 LIKE "名詞-普通名詞%" AND 前方共起: (品詞 LIKE "動詞%" AND 活用形 LIKE "連体形%" AND 語彙素 = "た") ON 1 WORDS FROM キー DISPLAY WITH KEY AND 前方共起: 品詞 LIKE "動詞%" ON 2 WORDS FROM キー DISPLAY WITH KEY IN (registerName="出版・新聞" AND core="true") OR (registerName="出版・雑誌" AND core="true") OR (registerName="出版・書籍" AND core="true") OR (registerName="特定目的・白書" AND core="true") OR (registerName="特定目的・知恵袋" AND core="true") OR (registerName="特定目的・ブログ" AND core="true") WITH OPTIONS unit="1" AND tglWords="20" AND limitToSelfSentence="1" AND endOfLine="CRLF" AND tglKugiri="|" AND encoding="UTF-8" AND tglFixVariable="2"

表1では、格内連体修飾形と格外連体修飾形の合計数が示されている。本研究では、コアデータの例文全体を見て格内・格外を判別し、その考察に基づいて、分析を行うことにする。上位3位「こと」「ため」「もの」は、形式名詞としての用法と格内連体修飾形との合計数である。本稿では、第4位の「人」、第7位の「場合」、第33位の「問題」を、格内・格外の比率、格内使用において利用した格の種類、共起しやすい動詞・助動詞の文法形式において考察する。また、「事件」と「動機」については、動詞「ル形」と「タ形」の使用においてそれぞれ特徴的であることから、分析例として取りあげることとする。

3.動詞及び助動詞+「人」「場合」「問題」の用例

3.1 「人」について

3.1.1 動詞+「人」の用例

Left	Center	Right
なります。家族の一員として犬やネコと接している	人	なら、その感覚がおわかりになると思います。それを
やチャットでも、ただの遊びで面白半分参加している	人	もいれば真面目に出会いを求めて参加している人も
り、経済的な理由からやむを得ず親と同居している	人	が最も多い(第3-2-8図、付表3-2-7)。
施しています。また、日本語を第二言語として学ぶ	人	の中でも特に成長期にある子どもたちが、日本語や
また、いまサーフィンが人気を呼び、波乗りを楽しむ	人	たちが全国から集まり、三百人ほど定住しているとい
もいる。その一方で、当然のこととして裁判を起こす	人	もまた多い。貴子さんは訴えられた側だから、私は
先生の授業は、型破りだった。障害や難病に苦しむ	人	の話をよく取り上げ、生徒同士で討論させた。「世の
を心掛けている。毎月、その月に誕生日を迎える	人	を祝う「誕生会」を実施。クリスマスパーティーやひな
彼は殉教者になれなかった」と複雑な表情を見せる	人	も。独裁者の末路に対する感慨は様々だが、市民に

図1 動詞+「人」

3.1.2 助動詞+「人」の用例

Left	Center	Right
示は適法 談合疑惑を追及する住民訴訟を起こした	人	に、公正取引委員会が審判に証拠提出した事件記
に関しては、「ほぼ全面的に公的年金に頼る」とした	人	が二十九%で、千九百九十八年の前回調査より7.
るのだろうか、どこからきたのだろうか、乗っていた	人	たちはどうしたのだろうか。余裕が出てきた私に、今
くれたスタッフには、子どもを亡くしたり、家を失った	人	もいる。そんな中で手作業の復旧に全力を傾けてく
への準備をすること、民間企業が学校で排除された	人	達にもっと参加するように働きかけること、人々が生
まあがりっ放しだ。去年俺たちのツアーに来てくれた	人	たちも、がっかりさせることのない強力な内容で今年
し付け加えておきたいのは、死後の世界を信じない	人	ではなく、神仏を信じない人の場合についてです。
想に「まだ、子育ての本格的な苦勞(笑)を知らない	人	が話題にする言葉。言った人がおかしいの！気にし
は、経済的理由から結婚しない、あるいは、できない	人	の割合が高くなっている。今後、デフレの下で経済の
した作品を地で行くような運命をたどることになった	人	だ。『裏窓』のリザという役は、いわゆる才色兼備の

図2 助動詞+「人」

「人」においては、動詞/助動詞共起ともに圧倒的に格内連体修飾形の用例が多く、しかも、修飾節内で主格となる用例が90%以上である。格外連体修飾を対象としようとしたが、その用例が「人」については、ほとんどなかった。また、「私が昨日見た人」というような対格使用も可能性としては有り得るが、実際の使用状況をコーパスで見ると主格使用がほとんどであった。これは、「人」が有生名詞(animate noun)であることに起因すると推察する。動詞連体形使用数は、474であり、それに対し「タ形」使用数は、190である。割合は、ほぼ同じで、特にどちらかに大きな偏りはない。

共起する助動詞の種類を考察すると、テンス(例:「起こした(人)」)・アスペクト表現(例:「乗っていた(人)」)・ヴォイス表現(例:「助けられる(人)」)ともに制限は見受けられず、否定表現も含まれる。

3.2 「場合」について

3.2.1 動詞＋「場合」の用例

Left	Center	Right
「動1専門の会社に頼む 予算や納期に余裕がある	場合	は、この方法がよいだろう。ただし、リピートがあるた
この生活はどれに近いですか。結婚していらっしゃる	場合	は配偶者の親を含めてお答えください。(〇は1つ)」
「させています。同時時間帯に重なって放送されている	場合	は、両方ともちゃんと録画して目を通しておられる。「
」の関西版のこと。一人ないし数人で商売をおこなう	場合	に用いる商法だ。このとき、外部の力をいかに働か
「ゲームの再精練のようにエネルギー消費量が減少する	場合	に大きな効果が見込まれます。ほかには廃プラスチック
「(レベル2階)までお送りください!! 画像データで送る	場合	はE-mailに添付してspur@skichannel.ne.jpま

図3 動詞＋「場合」

3.2.2 助動詞＋「場合」の用例

Left	Center	Right
「努めるとともに、仮に海外でトラブルに巻き込まれた	場合	には、留守家族等に安否を至急連絡することなどの
「の年齢別出生率で1人の女性が子どもを産むとした	場合	の平均子ども数を表すものであるが、同一出生年集
「の2つの型がある。要介護など所定の状態になった	場合	には保険料の払い込みが免除される。五十歳女性
「機能が追加され、また、トラヒックが大幅に変動した	場合	には事業者間で精算を行うこととされた。さらに、
「に時間外労働を月平均八十時間を超えて行かせた	場合	について、それぞれ具体的な措置を示している。(注
「成績に基づく学校評価を重視し、改善が見られない	場合	には生徒が転校できるようにした。宗教団体による
「を切る場合もあるだろうし、条件闘争をして切らない	場合	もあるだろう」と、小島朋之・慶応大総合政策学部長
「で設定ができます。もしBIOSがおわかりにならない	場合	には、残念ながら知識のある方に聞か、メーカーの
「で相当数の空家があり、将来とも需要が見込めない	場合	にあつては、当該空家部分を積極的に活用するため
「を援本部と地域レベルの本部とが同時に設置される	場合	が多い。平成十二年9月の東海豪雨災害の際には
「を病院として誕生した。だが、老人を病院に入院させる	場合	、患者の家族は“捨てた”という後ろめたさを感じが

図4 助動詞＋「場合」

「場合」については、「とき」「ところ」などと類似して、格外連体修飾節の被修飾名詞というより節や句を導く副詞としての役割が大きいようである。しかし、本稿では「場合」は、「に」を伴って副詞節を導くとし、「場合」単独では格外連体修飾節として扱いたい。共起する文法形式としては、動詞「ル形」(例:「おこなう」「減少する」)、アスペクト表現(例:「放送されている」)が用いられることはもとより、助動詞でも、「タ形」(例:「状態になった」)、「受け身」(例:「設置される」「巻き込まれた」)、「使役」(例:「入院させる」)など多岐にわたる。

3.3 「問題」

3.3.1 動詞＋「問題」の用例

「問題」については、格内/格外両方に大きな偏りなく使われるので本項では、動詞・助動詞共に格内/格外別の用例をまとめて図を作成した。

3.3.1.A 動詞＋「問題」：格内連体修飾形の用例

Left	Center	Right
ト問題や台湾との関係を含め、中国が直面している	問題	は少なくない。五輪はいやおうなく、巻き込まれてい
少年院教官調査の結果、特に、困難度が増している	問題	として、少年の資質の問題のほか、親の指導力及び
1図のとおりである。最近、非行少年の抱えている	問題	の中身が「変化した」「かなり変化したと思う」及び「
る。「靖国神社参拝をやめたからといって解決する	問題	ではない。教科書、尖閣諸島、東シナ海のガス田問
展を遂げた。一方で、政治体制の脆弱さから生ずる	問題	や、グローバル化の進展に伴う経済格差の拡大が顕

図5 動詞＋「問題」：格内連体修飾形

3.3.1.B 動詞＋「問題」：格外連体修飾形の用例

Left	Center	Right
をめぐす米朝中三カ国協議に、日本や韓国を加える	問題	について「当事者間の合意があれば、柔軟な姿勢だ
合わせ、最後の1球がセンターで終わることが出来る	問題	を「詰めソリテア」としています。2つ目は「詰めタコ」
感への努力が注目されています。地球環境に関する	問題	は、私たちの日常生活から改善すべきこと。多くの道

図6 動詞＋「問題」：格外連体修飾形

3.3.2 助動詞＋「問題」の用例

3.3.2.A 助動詞＋「問題」：格内連体修飾形の用例

Left	Center	Right
中野田)の芝の根付き状態に不安が指摘されていた	問題	で、日本サッカー協会の高田豊治施設委員長は十
において、みんなで本番の紙に、みんなが考えてきた	問題	をまとめる。2かっこいいタイトルやおもしろいタイト
代社会においては、前提条件が明確な、与えられた	問題	を解けるばかりではなく、革新すべき課題を明らか
書の提出だけで終わらせ、事件は時効になっていた	問題	で、道警釧本監察官室は十一日、「当時の根室署の
を越えて行われており、一国のみでは解決できない	問題	であることから、サミット、国際連合等の国際的な枠
子どもは、実際の事象の説明を試みた。学習すべき	問題	は「ロウの状態変化を観察し、アトムくんこれを説
全を確保する必要がある。違法駐車など解決すべき	問題	は多いが、電動自転車など低速のものが安全に走
います。こういった問題は医者が勝手に決めるべき	問題	ではないからです。あらかじめこういったことを話

図7 助動詞＋「問題」：格内連体修飾形

3.3.2.B 助動詞＋「問題」：格外連体修飾形の用例

Left	Center	Right
どの勤務実態を偽って介護報酬を不正受給していた	問題	で、道は十五日までに、施設の短期入所療養介護と
馬全国協会の幹部が馬券を買ったとして処分された	問題	で、警視庁は9日、■■■■元常務理事(五十四)＝
ッド・マジックで府の許可量以上の火薬を使用した	問題	で、府警保安一課と此花署は八日、火薬類取締法違
ト事務所(千葉県市川市)の構造計算書が使われた	問題	で、国土交通省は二十一日、既に完成した十四棟の

図8 助動詞＋「問題」：格外連体修飾形

「問題」は、動詞・助動詞両方の共起例を考察すると、格内修飾・格外修飾形共に大きな偏りなく両方の形式で使用される。さらに、格内使用においても「生ずる問題」(主格)、「解決する問題」(対格)、「困難度が増している問題」(所有格)というようにさまざまな格において使われている。アスペクト表現(例:「直面している」「不正受給していた」)、ヴォイス表現の受け身(例:「処分された」)もみられる。また、「～べき」との共起例が複数考察できるのも「問題」の特徴である。

	内	3	少年が起こした事件についても、	警察が捜査に準じ
			奈良県で起きた事件では、	「警察官役」の男
			父が扱った事件から、	大物ブレイボーイ

「事件」という言葉を使う場合は、「事件」として認められる出来事が既に起こった後に使うことがほとんどであるから、格内・格外に関わらず、正確なテンス描写としては「タ形」であることが多いことは予想できる。これは、数値的にも「タ形」が多いことから推測できる。しかし、連体修飾節の直後あるいは、比較的近くで文が終了する場合は、その文末表現で、過去・完了時制が明確に提示される。このような時には、連体修飾節内では「ル形」が使われる傾向が窺える。これは、おそらく、時制については、主文で明示されるので従属節でいちいち表す必要もなく、内容が説明されていればよいという比較的緩慢な決定が格外連体修飾節内ではなされうる可能性があることと、それを後押しする要素として、音調的に「タ形」の重複を避けるためとも推察できる。

4.2 「動機」の用例

4.2.1 動詞+「た」(「タ形」)+「動機」の用例

	Left	Center	Right
無くていいはず)	金子容疑者がWinnyを開発した	動機	は、ネット社会が到来しつつある中で、旧態依然な
こわたる拘束と軟禁を受ける結果となった。同行した		動機	について張氏は、西安事件によって「蒋介石の威信
を企業の壁を乗り越えて行って来た。発端となった		動機	は日本社会における労働組合の地位の低下と、企業
打ち手であるが、プロの芸能者ではない。はじめた		動機	は子供が通う保育園のお祭りの出し物で、親も参加
何とかして今までと違ったものでやろうと考え出した		動機	そのものは非常に純粹であったと思う。ところが、そ

図 11 動詞+「た」(「タ形」)+「動機」

コアデータからは、「動機」を被修飾名詞とする動詞接続の連体修飾節は抽出できなかった。助動詞接続として「タ形」と共起する例文5例が挙げられた。4.1の「事件」の考察でも触れたが、「ル形」も「タ形」も描写する状況において違いがないといわれる語は、実際の使用状況では「タ形」使用が多いと思われる。ただし、「動機」においては、「ル形」と「タ形」の選択は、「事件」よりも話者の主観的判断が大きく左右されているようである。

「動機」については、コアデータだけでなく、検索範囲を拡げ、BCCWJコーパス全体を対象に検索をしてみた。その結果、「殺す動機」と「殺した動機」の違いとして、「事件」と同様、文末表現が遠い時は、「タ形」が使われやすいことが明確になった。また、話者が容疑者を犯人として認めている場合は、出来事が過去のこととして判断されるので「殺した動機」という「タ形」が選択されるが、話者が、容疑者として疑われている人物が真の犯人とは認められないという気持ちを持っていたり、実際に捜査の途中であるときは、「ル形」が使用されることが考察できた(例:「香菜さんを殺す動機は、まったくない」)。

5. 格外連体修飾形を形成する名詞の具体性と抽象性

格外連体修飾の特徴は、その名詞の内容を説明することである。そこで主名詞には、抽象名詞がよく使われる。抽象名詞とは、「個体ではなく事態の集合を指示する語である」(町田 2005) ことから、現在、表現しようとしている事態がどのような事態なのか説明を受ける「余裕」のようなものが名詞の中に内包されているといえる。これに対して、「固有名詞

は、集合ではなく一人の人間や一つの場所などの単独の個体を指示する」(同上)。したがって、固有名詞では、基本的に格外連体修飾形は形成されない。格外連体修飾の主名詞となる語の特徴として、大島(2010:6)は、「連体修飾節構造を形成するにあたって名詞の持つ情報が主導するタイプ」と述べている。そして、「名詞がもつ特性が連体修飾節の統語形式に反映されているのが外の関係といえるだろう。」と結論付けている(同上:29)。本項では、格外連体修飾節を形成する名詞の特徴をより客観的に考察する目的で、格内連体修飾節を含めて、名詞の特徴について、次の①～⑤のグループに分類を試みた。

表3 連体修飾節と被修諸語の「名詞」の特徴

連体修飾節	被修飾名詞	特徴	
格内連体修飾節	①固有名詞	個別的	基本的に格内連体修飾節のみ
	②普通名詞	具体的 抽象的	例：生命体 「人」 例：コロケーション「生じた問題」
格外連体修飾節	普通名詞	抽象的	③テンス・アスペクト区別あり 「ル形」も「タ形」使い分けられる。 例：「問題」・「話」
		抽象的 音調的要素	④テンス・アスペクトの区別は弱く、「タ形」が多用される。 例：「事件」・「動機」
		過去・完了 話者の判断	⑤「ル形」が多用される。 例：「必要」・「予定」

①グループ

固有名詞は、基本的に格内連体修飾形のみである。その中でも地名は、連体修飾節に用いられることが多いが、格関係を考えると「に」格によって結びついていることが多い。

(例： 昨日、富士山に登った。→ 昨日登った富士山)

②グループ

普通名詞のうち、日常的な事物や出来事を示すのに使う普通名詞は、格外連体修飾節を構成しにくい。また、生命性をもつ名詞もこのグループに含まれる。そして、「人」においては、被修飾名詞は連体修飾節内では主格であることがほとんどである。

③グループ

格外連体修飾節の被修飾名詞になりやすいのは、二字漢語動名詞であり、抽象名詞であることが多い。そのうち、「問題」「話」などは、テンス・アスペクトの区別に、描写する状況の違いが反映されている。

④グループ

これらは従来、「ル形」も「タ形」も両方とも使用可能とされていた語群であるが、コーパスに拠る考察では、「タ形」が多い。主観的判断によることもある。

⑤グループ

名詞の意味上、普遍的な内容や未来に関係するものなので「ル形」使用が圧倒的に多い。

6. まとめ

本研究は、連体修飾形を形成しやすい名詞について個々にその用例を考察することによ

って、格内・格外の量的・質的比較もふまえながら、格外連体修飾節内の文法的表現形式の特徴について分析した。その結果、格外連体修飾形を形成しやすい名詞は、抽象的な二字漢語が多く、その意味によって文法形式を決定付けている特徴を持つ。したがって、主体名詞を使って表現する状況がどのようなものであるかによって、テンス・アスペクトの有効性や動詞の「ル形」か「タ形」かの選択、またはその他の助動詞連体形のいずれかと共起するかを決定することが判明した。本研究においては、コーパスから多くの具体的使用例を抽出し、焦点を絞り込んで考察できることが可能になったため、格外連体修飾形の主体名詞の意味的特性とその文法形式の繋がりを明確にすることができた。

謝 辞

本研究は、文部科学省科学研究費補助金、基盤（C）課題番号 25370496 (研究代表者：田辺和子) による補助を得ています。また、資料制作にあたり、田和英子氏から大きな協力を得ました。深く感謝いたします。

文 献

- Chujo, K., K. Oghigian and S. Akasegawa, A Corpus and Grammatical Browsing System for Remedial EFL Learners. In Leńko-Szymańska, A. and A. Boulton (eds.), *Multiple Affordances of Language Corpora for Data-driven Learning*. pp. 109-128, Amsterdam: John Benjamins, 2015.
- Comrie, Bernard. (1996) The unity of noun modifying clauses in Asian languages. *Pan-Asiatic Linguistics: Proceedings of the Fourthe International Symposium on Languages and Linguistics*, January 8-10, 1996, Volume 3, pp.1077-1088.
- Comrie, Bernard. (1998) Rethinking the typology of relative clauses. *Language design*. pp.59-86.
- Comrie, Bernard. (2010) Japanese and the other languages of the world. *NINJAL project review1*. pp.29-45.
- 岩崎 卓 (1998) 「従属節テンス認定の問題 一外の関係の連体修飾節の場合一」『大阪大学日本学報』17 pp.27-43.
- Kawaguchi, Yuji(eds.). (2007) *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*. John Benjamins. Amsterdam/Philadelphia.
- Matsumoto, Yoshiko. (1988) Semantics and pragmatics of noun-modifying constructions in Japanese. *Berkeley Linguistics Society* 14, pp.166-175.
- 宮地朝子 (2005) 「形式名詞に関わる文法史的展開一連体と連用の境界として一」『國文學』學燈社
- 中島孝幸 (1995) 「現代日本語の連体修飾節における動詞の形について一ル形・タ形とテイル形・テイタ形一」『人文論叢』12号, 三重大学
- 丹羽哲也 (2013) 「連体修飾における基本形とタ形の対立」藤田保幸編『形式語研究論集』和泉書院
- 大島資生 (2010) 『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房
- 寺村秀夫 (1975-1978) 「連体修飾のシンタクスと意味(1)-(4)」寺村(1992)所収
- 寺村秀夫 (1992) 『寺村秀夫論文集 I一日本語文法編一』くろしお出版